

干潟及び藻場回復の取組に関する支援 I 天皇洲におけるアサリ生育状況調査

増養殖環境課 清水重樹・山下樹徹

1 背景・目的

近年、全国的にアサリの漁獲量が減少しているなか、高知県でも昭和58年の2,819トンを最大値としてアサリの漁獲量は減少を続け、現在ではアサリ漁業が成立しなくなっている。水産試験場では、かつてアサリの主産地であった浦ノ内湾の天皇洲に調査定点を定め、平成16年からモニタリング調査を実施してきた。

本報告では、平成31年4月から令和2年3月まで行った調査の結果をまとめたので報告する。

2 材料と方法

調査定点、図中記号、地盤高、調査期間及び調査回数を表1に、調査定点の位置を図1に示す。

表1 調査定点一覧

調査定点	図中記号	地盤高cm	調査期間	調査回数
天皇洲北定点	T1	0		
天皇洲南定点	T2	0	4~3月*	12
天皇洲対照定点	T3	+50		

※:調査日は、H31年4/23・R元年5/21・6/17・7/17・8/16・9/17・10/15・11/11・12/12・1/12・2/13・3/11

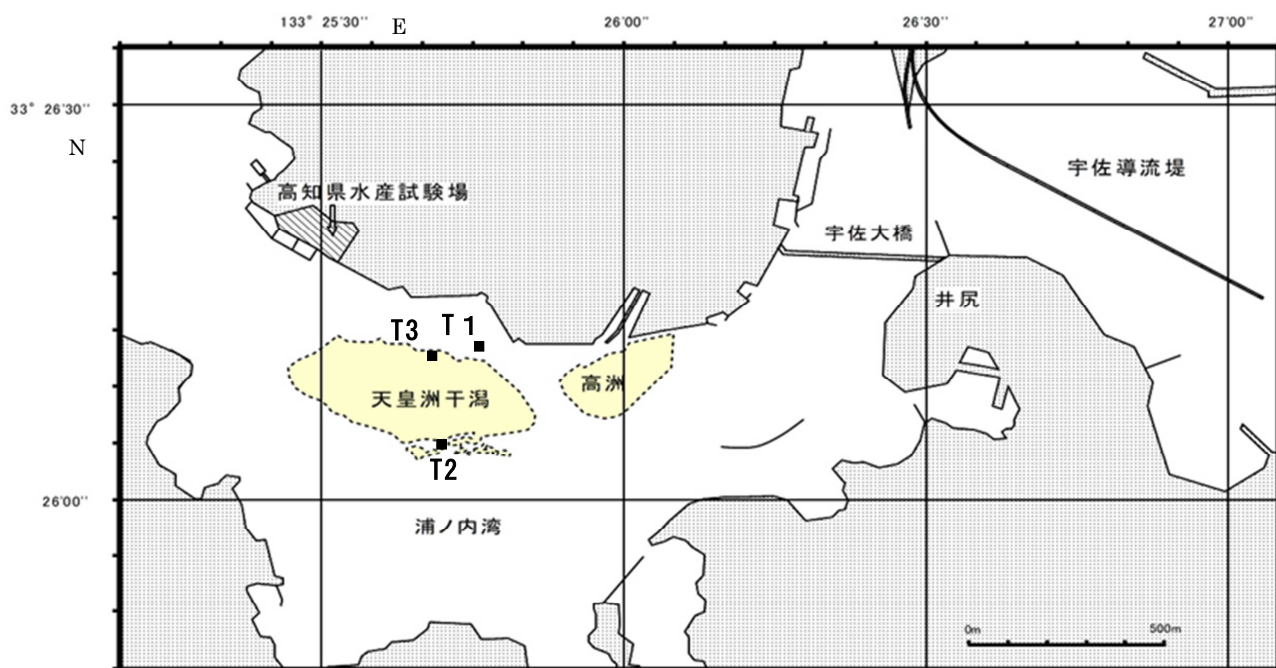


図1 調査定点の位置

天皇洲北定点（以下、「北定点」という。）と天皇洲南定点（以下、「南定点」という。）は、平成16年7月から継続調査を行なっている地盤高0cmの調査定点、天皇洲対照定点（以下、「対照定点」という。）は、平成22年6月から継続調査を行なっている地盤高+50cmの調査定

点であり、これらの定点で毎月1回の頻度でアサリ生息状況調査を行った。

サンプリング方法は、内径108mm・筒長100mmのポリ塩化ビニール製コアサンプラー（以下、「コアサンプラー」という。）を用いて、1定点につき5回ずつ深さ10cmまで採取した底質を1サンプルとし、2mmの篩で砂泥などを除去した後、生息個体数とともに殻長と総湿重量を測定した。

3 結果

定点調査におけるアサリ生息個体数、同重量、平均殻長及び生息個体数の年度別平均値の推移を図2に示す。

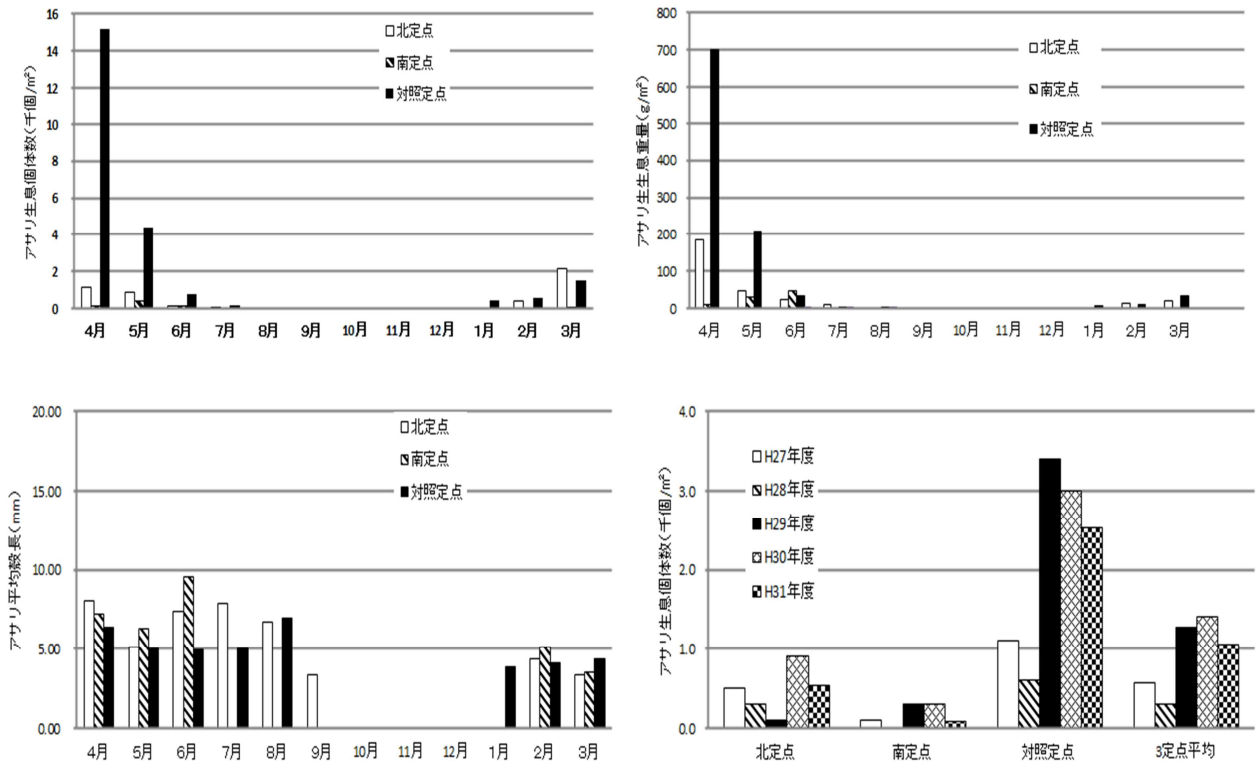


図2 定点調査におけるアサリ生息状況調査結果

アサリの生息個体数は、3定点とも5月頃から減少が始まり、8月にはほぼ消滅し、1月頃から再び増加した。最大値は、北定点で2,140個/m²（3月）、南定点で420個/m²（5月）、対照定点で15,120個/m²（4月）であった。また、対照定点、北定点、南定点の順に多い傾向が見られた。

アサリの生息重量は、生息個体数と同様の変動傾向を示した。最大値は、北定点で183.4g/m²（4月）、南定点で47.3g/m²（6月）対照定点で701.3g/m²（4月）であった。

4 考察

これまでの調査結果から、天皇洲に着底した秋季発生群は翌年稚貝となって成長を続けるものの、初夏から魚類等の食害による大量減耗が始まり、秋季にはほぼ消滅することが明らかとなっており、今回の定点調査も同様の結果となった。

児玉・林（2017）は、天皇洲のほぼ全域にアサリは生息しているものの、地盤高+70cm以下で生息個体数が多かったと報告しており、同様の結果となった。

5 引用文献

児玉修・田井野清也（2016）アサリ資源回復試験．平成 26 年度高知県水産試験場事業報告書，112，120-136.

児玉修・林芳弘（2017）アサリ資源回復試験．平成 27 年度高知県水産試験場事業報告書 113，169-191.

農林水産省．漁業・養殖業生産統計